



月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2001.2.16 No 5268

全支部活動者 研修会報告その2

「ニューフロンティア21」 と第二の分割・民営化攻撃!

一月二八日、二九日に伊東グランドホテルにて行われた、二〇〇一年全支部活動者研修会は、二日目、昨年、JR東日本が発表した二〇〇一年から二〇〇五年までの中期経営構想「ニューフロンティア21」の全容を組合側から解きあかす講義として、本部・田中書記長が、「ニューフロンティア21」と、「第二の分割・民営化攻撃」をテーマに、講演を行った。

本稿では、その内容の要旨を抜粋して、明らかにしていきたいと考える。

「ニューフロンティア21とは何か?」

「ニューフロンティア21」とは何か?それはその前提として、一、はじめに「新たな時代を切り拓く」の章で冒頭語られているように、JR法の上程、完全民営化(本州三社)があり、「国鉄改革の最終目標である完全民営化が目前に迫っている」ことがある。そして責かされている内容は、鉄道会社としてのこれまでのあり方を根本的に転換させようとする「第二の分割・民営化攻撃」そのものと言える。

具体的にページを繰ってみればわかる通り、「ステーションルネッサンス」の展開として、ショッピングモール型の駅が第一

義的に登場し、駅は儲かる一営利優先が第一に置かれ、本来、鉄道会社としての第一義でなければならぬ鉄道事業に安全は、「事業戦略」の三番目にまで転落してしまっている。

要は、一九九五年に日経連が発表した、「新時代の日本の経営」のJR版大リストラ計画が、「ニューフロンティア21」が目指すものなのだ。その競争原理によって基つかれた表現の数々「グローバル市場経済の浸透による冷徹な優勝劣敗の市場原理と自己責任の原則に貴かれた真の意味での競争社会が到来」、「グローバルスタンダード

に基づいた連結決算時代の到来」、「交通市場の規制緩和による競争の熾烈化」、「(IT)情報技術」革命の急速な進展」、「小中高齢化の急激な進展」、「株主価値重視経営」への転換、等々、強調されていることの大要は、JRとグループ企業の労働者すべてを徹底した弱肉強食の世界にたたき込むことを宣言した内容となっている。「むすび」で言う、「この改革は当然困難や痛みを伴うが、企業が生き残り、社員と家族の幸福を実現する唯一の手段」とまで提起されている。

その具体内容は、(1)、JR本体の大リストラであり、①、二〇〇五年までに社員数を一万人削減(現行でも社員数約七五〇〇人のうち、出向が一万人弱であり、実質的には五五〇〇〇人にする内容となっている)、②、雇用・賃金制度の全般的な見直し、③、地方ローカル

線(不採算部門)の切り捨て、④、「コスト削減」、「株主価値の向上」、「収益率の最大化」とアジテーションを繰り返して、⑤、「事業戦略の第一は、「ステーションルネッサンス」として、⑥、その(2)、グループ企業全体の大再編を行い、(3)、この計画の中心軸をなす攻撃として、「シニア制度」と鉄道事業業務の全面的な外注化がある。しかしながら一方で、その本文中に人心荒廃を自認しなければならぬほど、「分割・民営化」体制の矛盾が露呈されているのも事実である。

グローバル化、規制緩和がもたらす安全の崩壊

「ニューフロンティア21」では、「グローバル化」、「規制緩和」がとり上げられ、国際会計基準ということが記載されている。ここでは、二〇〇一年版労研報告に列挙された、「グローバル化と連結決算に対応した人事制度の徹底を」、「年功部分を極力縮小」、「退職金制度も業績・成績評価を反映する」、「退職金制度を廃止した企業もあつておくれ。規制緩和がもたらす安全の崩壊(仕業検査の延伸など)、地方ローカル

線の切り捨てとしてすでに開始されている。

社会云保障制度の解体攻撃と、「シニア制度」

業務外注化攻撃

この攻撃の根底にあるものとして、「社会保障制度」一年金制度の改悪がある。①、前項であげた、二〇〇一年版労研報告は、はじめて、「社会保障改革」に一章を設け、年金・医療等、社会保障制度解体を全面的に強調した。②、年金制度の改悪等では、基礎年金の段階的引き上げ、報酬比例部分の段階的引き上げ、被保険者期間の延長、総報酬制の導入、保険料率の段階的引き上げ・支給額の引き下げ、企業年金の解体等々があげられ、その他、雇用保険、医療、介護保険などに及んでいる。

何よりも、この年金制度の改悪を徹底して悪用したのが、JR東日本の「シニア制度」なのだ。そしてこの「シニア制度」と一体となった鉄道業務の全面的な外注化攻撃がある。ゆえに、「シニア」外注化阻止闘争は、単に個別の課題ということではなく、まさに「第二の分割・民営化攻撃」との闘いなのである。

動労千葉第44回定期委員会

2月24日(土)13時

DC会館

委員・傍聴者の結集を